

# 腰部脊柱管狭窄症が進行すると 連続歩行が困難になり陰部の 激痛や灼熱感も併発する

高野裕一 岩井整形外科内科病院院長

**脊柱管狭窄症は高齢者が発症しやすく七割が七十代以降で高齢化の影響により今後も増加**

高齢化に伴って増加している病気のひとつが、腰部脊柱管狭窄症（以下、脊柱管狭窄症と略す）です。背骨には神経の通り道である「脊柱管」と呼ばれる管があります。長い年月の間、体を支えつづけていると、加齢によって背骨が変形して脊柱管が狭くなってきます。腰椎（腰の骨）部の脊柱管が狭くなった状態が脊柱管狭窄症です。

脊柱管狭窄症の患者数は五十代以降から増えはじめ、七割が七十代以降と報告されています。総務省が発表した二〇一六年における六十五歳以上の老年人口は三三四七万人でした。全人口

術を行うケースが多いのが馬尾型と混合型です。

**脊柱管狭窄症の症状は足腰の痛み・しびれや異常勃起、排便・排尿の障害など多岐にわたる**

脊柱管狭窄症では、間欠性跛行に加えて、足腰の痛みやしびれ、下肢の脱力感や知覚異常、まれに歩行時の失禁などを伴うことがあります。脊柱管狭窄症の患者さんが訴える自覚症状に

の四人に一人以上が六十五歳以上の高齢者であり、今後も高齢化とともに脊柱管狭窄症の患者数が増えていくと予想されています。実際、私が勤務する整形外科にも、足腰の痛みやしびれに悩む脊柱管狭窄症の患者さんがおおいに通院されています。

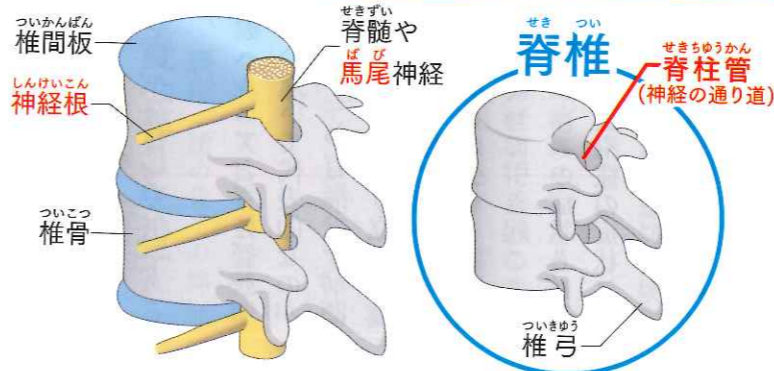
脊柱管狭窄症の患者さんは、腰痛に加えて下肢の痛みやしびれ、だるさを訴えることが多く、中にはひざや股関節まわりが痛い訴える方もいます。患者さんによって症状に違いが出るのは、圧迫されている神経の部位が異なるためです。脊柱管狭窄症は、圧迫される神経の部位によって、一般的に「神経根型」「馬尾型」「混合型」の三つに分類されます。

神経根は、脊髄の末端から左右に枝分かれた神経の根もとは、次のようなものがあります。

**腰痛**  
脊柱管狭窄症の患者さんの半数以上が腰痛を訴えます。腰椎椎間板ヘルニアでは安静時でも痛みがあるのに対し、脊柱管狭窄症では立ったり歩いたりする動作時に痛みが悪化し、安静時には軽減するのが特徴です。  
**下肢痛**  
腰痛に次いで多い症状が下肢痛です。痛みを感じる部分は、圧迫される神経の部位によって、太ももの前側や股関節、ひざ上

のことで、神経根が脊柱管の狭窄によって圧迫されるタイプを神経根型といいます。神経根は背骨の左右に一つずつあり、

## 馬尾神経と神経根



馬尾：脊髄神経から枝分かれた神経の束。腰椎部の椎管に存在する  
神経根：馬尾から枝分かれた神経が椎管から左右に出ていく部分

通常は左右どちらかの神経根が障害を受け、症状も左右どちらかの足腰に出るのが特徴です。馬尾は、脊髄にある末端の神経の束のことで、腰椎部の椎管の中に存在します。馬尾が椎管の狭窄によって圧迫されるタイプを馬尾型といいます。馬尾が圧迫される左右の下肢全体につながっている神経に影響が出るため、両方の下肢の痛みやしびれが広範囲におよび、間欠性跛行という歩行障害が現れるのが特徴です。

神経根型と馬尾型が合わさったタイプを混合型といいます。二つのタイプが合わさっているため、症状も馬尾型と神経根型の二つの特性を持っています。脊柱管狭窄症の三つのタイプの分類は、レントゲンやCTスキャン（コンピューター断層撮影装置）、MRI（磁気共鳴断層撮影装置）などによる検査や、患者さんへのくわしい聞き取りによって行います。三つのタイプの中で手

に症状が出たり、太ももやひざの裏側、ふくらはぎに痛みが出たりします。

**足のしびれ・知覚異常**  
お尻から太ももの裏側、足先にかけて、痛みに加え、しびれるような感覚が生じることも少なくありません。そのほか、冷感や灼熱感、引きつり感、締めつけ感など、さまざまな知覚異常が出る場合があります。足裏がジリジリする、足裏の皮膚が厚くなったように感じるなども知覚異常の一つと考えられます。

**下肢の脱力感**  
脊柱管狭窄症の患者さんの約半数に下肢の脱力感が見られると報告されています。具体的には、「足に力が入らない」「かかとを上げられない」「階段や段差などでよくつまずく」「スリッパがすぐに脱げる」などの症状です。下肢の脱力感、動作時だけではなく、午後や夕方に強まるのも特徴です。

### その他

馬尾には膀胱・尿道、直腸・肛門につながる神経の出発点があるため、重症例ではマヒが進行して歩行時に尿や便をもらす排尿・排便障害が見られます。

**たかの・ゆういち**  
1997年、新潟大学医学部医学科大学院修了。秋田赤十字病院、新潟大学医学部附属病院などでの勤務、岩井整形外科内科病院整形外科部長・副院長を経て、2015年より現職。日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本リハビリテーション医学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術技術認定医。

